

彙報

都市の形狀の歴史的考察

東京帝國大學助教授 今井登志喜君

都市の形狀には碁盤形と或る中心より街路の放射せる放射線形とある、都市が設計の下に規則的に造られる場合は碁盤形で、設計されたのでなく不規則的に出来るのが放射線形であること説く人もあるが、それは妥當ではない。兩者共に設計されて出来るものもある。西洋では碁盤形の市街は古くからあり、古代希臘のヒポダモス式と云はれるもので紀元前第五世紀に各地に此式の市街が現はれてゐる。羅馬では古くは此式は少いが殖民地が出来

大會 昨年十一月十六日午後一時より京都帝國大學樂友會館樓上に於て開催、先づ濱田博士の會務報告ありて後、左の二氏の講演あり、其間評議員の改選を行ひ午後五時講演を終了した。

天正年間遣歐使節に關する新發見の文書に就いて

京都帝國大學教授 新村 出君

先づ天正年間九州諸侯遣使に關する從來の研究過程の一斑を紹介せられた後、使節の目的と行程とを略述し進んで今度發見せられて本學國史研究室の有に歸した所の使節關係古文書三通の形式と内容とを説明された。その間、使節の行程の叙述につきてはまゝ、文學的連想に及び時に別室に展觀された參考資料を指摘して、聽者の興味を起すに努められた。委細は本會刊行の「天正年間遣歐使節關係文書」に附する解説に譲る。

歐洲に羅馬式の残つてゐる都市は百二十程ある、併し何れも眞の昔の式のものでなく、改造されたものである。中世以後になれば此形は變化した。街路は不規則になり外廓は整理されて圓形又は楕圓形となつた。十二世紀の末頃から又規則的設計が現れた。併し之は羅馬時代の正方形と異り圓又は楕圓形が多く、十六世紀以後になれば又羅馬式の復活があつた。斯く或る時代に規則的市街が

造られるのは、其の時の急激な文化の飛躍があつて、合理的精神が動き合理的に市街を建てなほすに依るのである云々。

右終了後、引續き晚餐會を開き、席上濱田、三浦、新城、内藤の四博士森田實氏玉井是博氏の談話ありて午後九時閉會した。

尚ほ當日展觀に供せられた陳列品の主なるもの左の如し。

- 一、一五八二年(天正十年)正月廿七日附耶蘇會總長宛
ド・バルトロメイ大村純忠書狀(葡文端裏書附)

京都帝國大學文學部所藏

- 一、同上書狀包紙

同上

- 一、天正十二年(一五八四年)十一月七日附教皇ケレゴリヨ十三世宛
ド・フランシシヨ大友宗麟書狀(前隔)

- 一、同上書狀包紙

- 一、同上書狀包紙

- 一、天正十九年(一五九一年)八月廿日附教皇總機員カラハ宛
ドン・プロタシヨ有馬晴信書狀(葡文端裏附)

- 一、教皇ケレゴリヨ十三世製使節來府記念圓牌(模型)

- 一、伊太利ヰイツェンツア市オリムヒヤ劇場使節壁畫(寺島武

- 一、伊太利ヰイツェンツア市オリムヒヤ劇場使節壁畫(寺島武

男氏模寫)

東京美術學校所藏

- 一、伊太利ヰエネチヤ市聖マリヤ・テラ・カリタ寺使節記念碑銘(拓本)

- 一、羅馬ヰアチカノ宮圖書館使節壁畫(寫眞)三浦 周行氏所藏

- 一、同上圖書館シスト室(寫眞) 同上

- 一、西班牙マドリー王宮武器館藏使節獻上甲冑(寫眞)

- 一、羅馬ヰアチカノ宮圖書館藏ヰエネチヤ市宛使節書狀(寫眞) 梅原 末治氏所藏

- 一、一五八七年(天正十五年)豊臣秀吉宛葡萄牙領印度總督書狀(國寶) 三浦 周行氏所藏

- 一、天正十九年(一五九一年)葡萄牙領印度總督宛豊臣秀吉答書 妙法 院所藏

- 一、天正十九年(一五九一年)葡萄牙領印度總督宛豊臣秀吉答書 富岡益太郎氏所藏

- 一、遣歐日本使節記 グワルチエリ撰

- 一、同上佛譯本 天正十六年巴里版 同上

- 一、同上佛譯本 天正十六年巴里版 同上

- 一、同上佛譯本 天正十六年巴里版 同上

- 一、同上佛譯本 天正十六年巴里版 同上

- 一、同上佛譯本 天正十六年巴里版 同上

- 一、同上佛譯本 天正十六年巴里版 同上

- 一、同上佛譯本 天正十六年巴里版 同上

- 一、同上佛譯本 天正十六年巴里版 同上

- 一、同上佛譯本 天正十六年巴里版 同上

- 一、同上佛譯本 天正十六年巴里版 同上

- 一、同上佛譯本 天正十六年巴里版 同上

- 一、同上佛譯本 天正十六年巴里版 同上

- 一、同上佛譯本 天正十六年巴里版 同上

- 一、同上佛譯本 天正十六年巴里版 同上

- 一、同上佛譯本 天正十六年巴里版 同上

一、Beschreibung der jungst gesanten....(Dillingen, 1587)
一、遣歐日本使節考 サンデ撰 天正十八年マカオ版

京都帝國大學圖書館所藏
(東洋文庫所藏ルートグラフ本複製本)

Ed. de Sande, De missione legatorum Japonensium ad
romanam curiam, rebusq;....(Macao, 1590)

一、東方布教史 グスマン撰 慶長六年アルカラ版

神田喜一郎氏所藏

Luis de Gusman, Historia de las misiones que han hecho
los religiosos de la Compañia de Jesus....(Alcala, 1601)

一、日本耶穌會史 パルトリ撰 萬治三年羅馬版

天保三年重版 伊藤 長藏氏所藏

Danteo Bartoli, Dell' istoria della Compañia di Gesu. II

(Giappone, Seconda Parte dell' Asia.(Roma, 1680 & Firenze,
1682)

一、日本西教史 クラツセ撰 貞享元年巴里版

正徳四年再版 三浦 周行氏所藏

Jean Cusset, Histoire del' Eglise du Japon.(Paris, 1689
& 1715)

一、同上英譯本 寶永二年刊 同上

一、The History of the Church of Japan (London 1705)

一、同上邦譯本 明治十一、十三年 太政官刊

京都帝國大學圖書館所藏

一、ヴェネチヤ市誌 サンサワイノ撰 察文三年刊

三浦 周行氏所藏
Francesco Sansovino, Venezia città nobilissima et singolare.

(Venezia, 1663)

一、日本古今記 ホルネンス撰 安政二年刊

Richard Hildreth, Japan as it was and is. (Boston, 1855)

一、日本古代使節記 ヘルシエ撰 明治十年刊

(Giuglielmo Berchet, Le antiche ambasciate Giapponesi in

Italia (Venezia, 1877)

濱田 耕作氏所藏

● 京都帝國大學文學部國史專攻學生關東地 方研究旅行記 (一)

京都帝國大學文學部國史專攻學生の昭和四年度秋季研
究旅行は三浦教授指導の下に昨年十月十四日より二十日
迄前後一週間關東地方に行はれた。一行十七名、歴訪地
は東京に於ける官衙、學校、私邸の外遠く鎌倉足利の史
蹟にも及び其の間得るころろ少小でなかつた。恒例によ
つて今左に其の概要を報告する。

十月十四(月) 近衛公爵家—伊藤公爵家

午前八時二十五分東京驛着直ちに近衛公爵邸に向ふ。

九時半參着、先づ文磨公に謁し別室の陳列品について三

浦教授の説明を承りつゝ、愈見學の第一歩を踏み出した。

先づ数多い貴重な日記の原本中から選り出された御堂關白記(寛弘四年の部)、中右記(寛治七年の部)、兵範記(嘉應元年の部)、猪熊關白記(建仁二年の部)、岡屋關白記(建長二年の部)を合せて五巻に目をさらした。御堂關白記は言ふまでもなく藤氏榮花の絶頂に立つて、此の世をば我が世と思ひ望月の虧げざる事を誇こした道長の日記として、朝廷の大事より參朝、宿直、祭會、祓除の些事に至るまで記し留めた意義深きものであるが、今私達の眼前に展べられたものは、今日に傳はれる日記原本の最古のものとして更に別個の價値をも併せ有つ。未ださしていたまぬ其の具注曆には支那人をして王義之の體を得たりと嘆賞させた見事な筆致鮮やかに綴られてゐるのではないか。時代は少し下つて家實の猪熊關白記では或は長く或は短く、しかし何れも整つた長方形に塗りつぶされた墨の痕が可成り目につく。これは書き損じ、其の他不用の文字を消したのであるが單に線を引くに甘んぜず凡帳面にも一々塗りつぶした所に筆者の性格がうかがは

れる。此の巻も亦先こ同じく具注曆に書込まれた原本で

あるが、他の三巻は自筆の清書にかゝり其の巻頭には目錄が附せられてゐる。而して兵範記に於ては注意すべき二つの紙背文書が見られる。一つは源頼政が法勝寺常行堂の御國忌御布施禮に參勤の事を報じた九月廿日附の請文であり、他は平重盛の十月一日附の書狀である。然しこれは前部が缺けて單に申候也、恐々謹言このみしか残つてゐない。如何にも惜しい氣はするが其の眞蹟に目のあたり接し得た事をせめてもの喜こする外はない。

以上五巻の日記は其の數量に於ては必ずしも多いと言へぬにせよ、其等は何れも世の人の先づ指を屈するものゝみであり、平安、鎌倉兩時代に於ける日記の形式を學び知る上にも敢て不足はないであらう。

次に書簡類では三蹟に次ぐ能書家として知られた忠通の二月廿九日附、僧官叙目に關したものを始め、慈鎮和尚大塔宮の御消息などあつたが其の内容はさして重要ではなかつた。然し足利義政が其の三月七日付の消息に於て世上之儀萬不應成敗候間令退堀ふと思ち候今の時分

定而疎略之様可被思食候へきも何共れうけんに不及候まゝ、此分候無緩怠心底者可有。上察候目出天下靜謐之念願候今ちこ心ながく被相待候べく候、言つてゐるのは養政後半世の悲惨な境遇を表示したところに意味の深長なるものがある。

次に孝明天皇の御宸翰に對し奉つては、國事に御軫念あらせられた様を如實に拜見して唯々恐懼するばかりであつた。元來攘夷は皇國之一重大事何共苦心難堪候と仰せられ、臣下の行動に關しては三條初幕烈之所置朕之了簡不採用其上言上モ無浪士輩ト申合セ勝手次第之所置と逆鱗なつて國賊三條の文字さへ見出されるのである。彼の七卿失脚直後のものなることは容易に推測される。

別に有名な熊野懷紙が三枚あつた。之は建仁元年十月九日藤代王子和歌會の時のもの、後鳥羽上皇御製の御題は深山紅葉に、海邊冬日、家隆と寂蓮とは同じく古溪冬朝寒夜待春である。其他にも佐理道風の眞跡と稱する數行の筆蹟なきもあつて、他の多くのものと同様豫樂院家黥公の整理を経てゐるのは亦公の趣味を覗ふに足るもので

あらう。

正午近く同邸を辭して次の日程に移つた。午後一時過伊藤家に着くと、公爵自身互關まで出迎へられ、直ちに一行を階上の座敷へ案内された。こゝでは近衛家の古書に飽滿した一行の注意を轉換して、故博文公を中心とした夥しき明治の史料に囁目させられた。公爵は今其の整理に力を注がれ、成るに従つて既に數個の文書箱に納められてゐるが、其の重要なものを取り出しては自身逐次に説明された。

其等の中には明治天皇の故伊藤公に賜つた優渥な詔を始めとして、公の上奏文、其他の意見書や、重要問題に關して公自ら集めおかれた書類、更には當時の名士等より公に送られた書簡類があつて、見て行く中に明治の元勳が實際如何に赤誠を捧けて國事に奔走したかを目のあたり眺める事が出来る、思はず涙ぐましい嚴肅な感激に打たれると共に天皇の篤き御信任を拜してはさこそこの由來する所以の一端をも理解し得られたやうにも感じ或は又諸種の制度が成立した過程には如何なる力が與つ

てゐたかの一斑をも跡づけるこゝが出来た、かくして感激は次から次へに展開され行く新しい史料と共に彌々高まつて時の移るも覺えずにゐるが、五時を過ぎた頃此の上の長居は餘りに恐縮と忽々に座を立つ、此の長い時間に見る事の出来た種々の文書は其の數もこより尠少ではない。今は然し其の中より唯特に重要なものののみを摘出して記し留めておかう。

詔の中最も注目すべきは多年の懸案たる憲法發布も遂に實現を見た明治二十三年の五月十四日賜つたもので、それには 朕惟フニ維新以來明治政府ノ基礎ヲ立シハ木戸大久保卿トナリ、兩士既ニ往キヌ、卿博文一人樞機ニ在ル事十有餘年、朕卿ヲ俟ツ事久シ、ミ仰せられ、次に一、宮廷ヲ離ルベカラズ、二、重要事アレバ諮問ニコタヘヨ、三、國家事アル日ハ出デ、之ヲ救ヘヨミの三ヶ條を擧げられてゐるのに伊藤公に對する御信任の如何に厚かつたかを遺憾なく拜察し得たのである。公も之を以て一代の面目と感激し、後明治二十八年先に旨を奉じて此の詔を取次がれた徳大寺實則卿に跋文を囑し、之に自跋を

も加へて桐の箱に納められてゐる。

意見書類では先づ條約改正問題に關して「余ハ政府ノ此重大問題ヲ因循苟且ニ附シ去リ躊躇離隴目前ノ事而已ニ汲々乎トシテ一刀割斷ノ處分ニ出ル事能ハザルヲ惜ム」此時の政府當局を鞭撻され、當方より各別に談判して之に應ぜずば交際を破毀するも辭せずとの強硬な意見が見える。之は其の後政府の採つた方法であつた。二十四年九月十五日、軍務大臣に關する御下問奉答に（暢懷錄の中）「兵權ハ君主自ラ直轄セザルベカラズ、サレバ其ノ陸軍大臣ハ政黨或政熟ニ動カサレ易キ政治家ヲ任用スルヨリモ軍事上ニ練磨シ軍政軍律軍人ノ性情ニ熟達セル將官ヲ任ジ容易ニ軍政ノ組織ヲ變更セシメザルノ勝レルニ如カズ」云と述べられてゐるのは先頃同じく文官任用の議が起つた事を思ひ合せて一段と感興が深い。然し公の最も苦心されたものは矢張り三國干渉と露國との開戦であつたらう。之に處すべき公の對策は果して如何様であつたか。幸ひ何れにも公自筆の書が残つてゐる。即ち前者では三策を樹て「一絶對的ニ之ヲ拒否スルコト、但此

場合ニ於テハ三國ト兵力ヲ以テ雌雄ヲ決スル覺悟ナカルベカラズ差向目下彼等ノ有力ナル艦隊ニ對シ如何ナル防禦策ヲ樹ル歟」こし第二に「金州半島ノ占領ヲ撤却スル條約ヲ會議ニ提出シ決定スル事」こして英國の參加を求め、支那は姑く疑問とする意を述べ、第三には「三國ノ勸告ヲ全然容レテ我ヨリ恩惠的ニ支那政府ニ向テ同政府ノ他ノ條件ヲ完全ニ實行シタル上ハ金州半島ヲ還與スルコト」を擧げられてゐる。後者は初めに、本日午前九時訪問、會合者桂、山本、小村三相午後山縣來會ニ端書し終りに明治三十七年一月三十日於總理大臣官舎執筆示四人ニ書き加へられてゐるのであるが、一月三十日は實に宣戰布告の十一日前、最後の御前會議の六日前である。當時の大官憂慮の程が偲ばれる。而してその内容は、初めに露國の野心を説いて衝突の避くべからざる事に及び「然レバ到底露ト干戈相視ルハ早晚免ルベカラザルモノタルハ火ヲ見ルガ如シ然レバ我國力ノ不足ニ願ミ此際小康ヲ得ルニ安ズル乎國家ノ運命ヲ懸テ彼ノ政略ヲ阻礙スルノ手段ニ出ル乎、是目今一刀兩斷ノ決ヲ爲サザルヲ

得ザルノ境遇也」を記して、未だ決定的態度はこゝに示されてゐないが、その「小康ヲ得ルニ安ズル乎」この一句が恐露病を云々された火元に見られぬ事はないであらう。

又公が如何に國事を以て常に其の念をされたかを見るべき好資料として次の如きものがある。それは北清事變に際して露國皇帝の提議により、獨逸將官を以て聯合軍總指揮官となすことを我皇室に照會し來り、既に同意の返電があつたを聞いたとて、之に對し「如何ニモ遺憾トセザルヲ得ス於茲乎善後策ナカルベカラズ余ハ終宵不能眠有髮衝冠思八月八日夜二時挑燈而書博文」を記されてゐる。其の公のありし姿は見るが如くである。而して九月二十七日獨逸のワルデルゼー元帥は天津に來着、公亦十月、山縣公に代つて總理大臣となり、十二月事件は落着いたのである。其の間一種の感興なきを得ない。次に秘書類纂には、公自ら重大な諸事件に關する書類を細大こなく集めおかれた大部のものであるが、試みに大津事變の部を見るに、我天皇より露帝に送られた書狀並びに

返書の寫しや、公露公使との應對記録其の他種々の書類がある中に、犯人處罰に對して、司法省の御雇外人バテルマストロー氏が、自國伊太利の刑法を引き、普通殺傷の未遂犯を適用すべしと論じた記録を見出したのは甚だ興味をそゝるものであつた。やかましい大隈參議提出

憲法意見書の寫しも目のあたり見る事が出來た。其の終りに「右明治十四年六月二十七日三條太政大臣ニ乞テ陛下ノ御手元ヨリ内借一讀ノ上自寫之博文」云あることも既に知られてゐる通りである。公が如何に事に熱心であつたかは、自ら手寫された此等多くの書類が雄辯に物語つてゐる。

伊藤公宛の書簡類では秘書官井上毅のものが多く、何れも政治上の意見を載せてゐるが、明治十七八年頃か十二月十一日付宮内外殿宛に見える憲法に關する意見が交詢社の私擬憲法を參考せるあたり、政府當局のそれに影響された跡を覗ひ得るものである。今一つ勝海舟が明治二十一年五月伊藤樞密院議長宛の書狀に、人の篤に官を設ける事、法律が西洋物の翻譯たる事を非難したのは姑

く措き、老朽者を官に採用せざる令が一昨年出でたに拘らず、今年に及んで樞密院に四十歳以上愚老の如き者を召出された云突込んでゐるあたり翁の面目の躍如たるもが見出される。

以上は稍々趣を異にし、明治初年の辭令書が數枚あつたが、其の中明治四年條約改正談判の副使として岩倉大使と共に歐米に派遣された間のもので、ワシントンより一旦歸國に付、授けられた大使の辭令書云、通譯外人雇人に關する大副使の副狀には、外國風の朱のシール（徑一寸九分）が捺され、且後者のシールの裏側に、小さな横文字の紙片が附着してゐるのも一種の興味をそゝるものがあつた。

十五日。宮内省臨時帝室編修局、文部省維新史料編纂事務局

九時半一行は宮内省臨時帝室編修局に參着、控室で小憩後導かれて別室に入る。こゝで三上博士から局の目的と方法に就き一通りの説明があつた後此の事業進行中史料の蒐集と共に益々明治天皇の御偉大を痛感し奉るにて

二三の例を語られ、更に偉大にましました理由を天稟、境遇、修養、元勳の輔佐等に分ち約半時間に亘つて詳説されたのは私達に深い感銘を與へた。

終つて廊下傳に陳列室に入るに、明治天皇御紀編纂の最も重要な資料をなすに語られた天皇に親近し奉つた人々の日記、談話聞書を始め、貴重な數々の資料が陳列されてゐる。其の中でも天皇特別の御望みによつて、藤浪子爵が獨逸留學中筆記して來られたと言ふシユタイン博士の國法學講義録や御携帶の軍隊號令手帳等は感慨深きものであり、更に寫真帖に天皇の御座所を、御使用の硯や御愛玩の馬の像をはじめ一切の調度をそのまゝに寫し取られたものを見出したのは、私達の腦裡に消え難い印象を残してゐる。又此の寫真の向ふには朝儀行幸の様なきを謹寫した孝明天皇の御紀附圖も長く展べられてゐた。其他樞密院會議録、憲法草案、教育勅語並に軍人勅諭の草案等獨り明治政府のみならず、我國に亘つて最も重要な意義あるものも數種出陳されてゐるが、最後に注意を集めたものに乃木大將の日記四冊がある。其の中四

六判型の薄い二冊は明治十年西南戰役從軍中のもので、一冊は和文、他はローマ字で記されてゐるも珍らしく、更に他の此れと同型の一冊が獨逸文で綴られてゐるのは獨逸在留中のものである。知らぬ單語をローマ字で代用するなき誰もするこゝながら面白い。今一冊はポケット入の小さな手帳であるが、此れこそ實に日露戰役中のものなのである。其の忽卒の間に鉛筆を走らせた簡潔な文字の間には、彼の山縣公より送られた激勵の詩や、爾靈山の詩、更に又我子戰死の報を受け取られた際の記事なき見えて吾人の胸を打つものがあつた。

午後は維新史料編纂事務局を訪ふた。こゝでは始めに柴田前局長の歓迎の挨拶を併せて局の性質、沿革に就ての説明があり、次で我等に親しき藤井編纂官は局の組織に關する説明と共に、編纂方法に就ての詳細な説明を與へられ、同室に其の過程を細密に記した圖面をはじめ多くの參考書類の出陳されてゐた事は啓發される所が少くなかつた。

此處から愈々別室の陳列場に入るに、採録史料蒐集文

獻、外國史料、朝廷諸記録、藩廳記録、公卿日記、大名之日記、諸士日記、邦人洋行日記、寫眞等の諸部に分つて夥しい資料が所狭しと列べられてゐる。

採録史料が蒐集文獻、外國史料云ふのは十一月から我大學の爲めに暮末外交史を開講さるべき大塚編纂官が新たに歐米を廻つて探訪されたもの、一部で、外國使節が本國政府間の往復書狀其の他によるこ此方で問題になつた事も先方政府では餘り問題にならず、其等の交渉が多く使臣の方寸に出るもの、多かつた事が知られるこの説明であつた。第一部は英佛蘭米等に在る關係交書目録の類のみであるが、第二部の蒐集文獻では、彼の和蘭國王の開港勸告に對する老中連署返翰の寫眞があつた。用紙は金沙地鳥の子だそうで、楷書で一字一字丁寧に書かれた文字は其の麗しい事、實に驚くに堪へたものがある。猶この類では我國最初の遣歐使節竹内下野守等が佛國より英國倫敦へ渡るに付き、渡航手續の周旋を依頼した書狀の寫眞もあつて、今後の歴訪國を併せて滯留中の厚遇を謝し、日附は文久二年戊三月晦日宛名は佛蘭西外

國事務執政エキセルンシー、ツブネルとこなつてゐる。

外國史料部ではプロシヤ使節オイレンブルグの報告書附圖が先づ私達を惹き付ける。之は彼が隨從の畫家に命じて江戸、長崎等滯留地の景色、風俗を畫かしたものであるが、畫中に見える日本人の服裝等も當時他の外人の手になつた物の多く支那人風に歪められてゐるに對し能く眞を寫し出してゐるのである。佛蘭西に分拂された下關砲臺備附砲生麥事件犠牲者リチャードソン遺骸等の寫眞もこゝに見出される。次に私達は米國外務省にあるタウンセンドハリス肖像の寫眞を擧げねばならない。從來日本の書物で見たものでは慈父の如く親しみ易い温顔を印象づけられてゐたのに、之は又何も言ふ近寄り難い傀儡な風手なのであらう。果して之眞に同一人であるか我目を疑はずにはゐられなかつた。しかも大塚編纂官が態々ワシントンの我大使館から齎らされたものご聞けば根拠のあるものご知らるゝ丈に興味が深い。朝廷諸記録の中詰所日記は三條家の記録にかゝり、安政戊午大獄に連坐した志士の行動を記してゐるが、就中三條家の家臣

森寺因幡守、丹羽豊前守、富田織部等逮捕東送の事情は最もよく知られる。

藩廳記録には水戸、熊本、會津、佐倉、川越琉球等諸藩のものがあるが、水戸の海防雜記(安政五年)に烈公の朱記あつて「京地の方をおろそかになされ候ては征夷の御任に堪へずと思ふなり、先づ天朝の方をお手厚に、次には江戸も國々までも手厚くなるが順道ならん」京地の軍備を嚴にすべきを強調し、又「公武間分れ」に相ならざる様いたしたし、萬々一分れ「相成る時は夷狄の事は姑くおき、内地の治り以外の事」心配するなり」と言ひ、秀吉家康秀忠の時代までは公武間親密であつたのに今は表面のみで「さくくなり、御所の御扱粗末になるも圖り難い」憂へてゐるあたり、如何にも水戸方らしい口吻である。會津の閣老方より御來簡寫「は在京都會津藩の記録で其の名の如く幕府老中よりの來翰を集録せるもの、他に多く其の例を見ぬと言はれる。又琉球藩の太守様就御相續上様改御誓詞日記に題するものは島津齊彬の死後琉球の攝政三司官等次代の茂久に對し異念な

き事を誓書血判した間の記録であつて「自然惡逆の者ありて國中一味すも國王同意せず通告する」と言つてゐるのであるが、しかも此の記録の初めに先づ大清咸豐九年「書し次に日本安政六年」續けてゐるのは琉球自身の態度を見る上に興味ある事實と言はねばならない。

公卿日記中、野宮定功卿の愚記には仁孝天皇崩御、孝明天皇御即位の御様子精しく、橋本實麗日記に和宮に關する記事の多く見えるのは宮の御生母「兄弟の關係によるものであつた。

邦人洋行日記では文久二年遣歐使節竹内下野守に隨行した幕府普請役益頭駿次郎の見聞日記に巴里滯在中「ナポレオン三世に帝妃あり四十歳甚だ美人の由」、「町家は高樓にして六七階あり、然し一家を一人にて住居なすにあらず一階毎に借家人を殊にしありて競ひ合ひ住居なす」と云ふ「ミカ或は「大功をあけし人の名を町名に名附くる由」なきお上り式の記事をミヅめてゐる。又萬延元年遣米使節新見豊前守一行が携帶して行つた國旗の一枚も出てゐる。餘り綺麗なものではないが宿所の窓に掛けた

のだミ聞いて興味を覺える。此の時米政府より贈られた
ミ言ふ銀製記念牌も之ミ並べられてゐた。

寫眞として書狀類が多かつた中に蓮田正實が細川邸
幽閑中に畫いた櫻田變圖も出てゐた。畫そのものはも
より大したものではないが、當事者の作だけに其の意味
に於て參考さるべきであらう。

かくして再び先の室に歸り、一行の爲めに大政奉還に
關する由來意義を力説された勝田編纂官の熱辯に感銘を
覺えて此處を辭したのは四時半であつた。

十六日(水) 内閣文庫、宮内省圖書寮、早稻田大學演
劇博物館。

九時半内閣文庫に參着、二階の一室にて始めに樋口龍
太郎氏より本文庫の由來に關する説明を聽き、それより
陳列物の見學に移る。

第一の文書部では先づ朽木文書があり、足利尊氏の判
物を始め直義義詮二人のみの判物各々數通を一巻として
花押研究にも參考ミなるものなご、足利氏のもの多く、
降つて天正檢地に關係ある御藏入帳も見えた。徳川家判

物並朱黒印帳ミ言ふのは將軍家代替り毎に社寺に與へた
領地安堵の判物、朱黒印狀の次の代に次々反納されたも
を集めた興味あるものである。

同じ文書の部でも押小路家文書、日野家文書廣橋家文
書等ミ題するものは右ミ異り立派な本になつた記録で、
例へば押小路家には八幡御幸記(弘長二年三月二十六日
龜山院)除目執筆秘抄、天皇御元服記(嘉應三年)豊草原神
風私記なご有益な記録が收められ、日野家も公武御用日
記(貧愛)立后雜事抄ミ言ふのがある。廣橋家文書には光
成御記(安政年間)があつて、其の禁中の經濟其他の諸
事について記した禁裏百ヶ條に、小法師に就て、一、不淨
物取捨其外の堂女日々穢多罷出是又掃除いたし候是を小
法師ミ申候尤御切米被下候事ミ記してゐるのも面白い。
第二類は本朝通鑑後鑑徳川御實記、官本三河記、藩鑑
寛政重修諸家譜等徳川時代になつた史書を主とするが、
將軍御手許本だけに表装は立派である。慶安四年度の柳
營日次記には八月十二日の條に、由井正雪黨與の者が評
定所で裁判を受けた時の記録があり、十三日の條に丸橋

忠彌に屋敷を貸した仲間頭大岡源右衛門及び其子二人を遠流に處す事、十四日の條には告發して賞を受けた者の事が見えてゐる。然し此等と共に吉宗が前代以來の法律を分類編纂した御觸留の御手許本もあり、又唐蠻貨物帳と言ふ變つたものもあつた。之は寛永正徳年間長崎に齎らされた外國貨物を江戸へ送るに付き記されたもので、其の七の卷正徳元年七月十二日の所には、和蘭船長 W. O. Boorn の署名あり支那側は「唐通事共」の判あつて、物品には糸、羅紗、ふくれん、かいき、さんす、ちりめん等が見える。

第三類幕末に關する記録には武家書翰往來を始め、陸軍奉行之留、海軍奉行之留、其他軍事關係の記録が可成り多く、更に外務省記、新徴組大砲組之留なきもある。前者は嘉永安政年間の外交に關する記録で、其の嘉永六年癸丑大澤豊後守 水野筑後守和蘭領事應接樞事筆記三は、蘭領事より亞米利加使節渡來の情報を聞き取つたものであつた。後者は新徴組は都下に惡漢暴行するを見て之に當り、國恩に報ぜんと思ふ中に、内命を蒙り、有司の指揮に従つて

密偵逮捕に力める事となつたこの意味を載せてゐる。最後に陸軍裁判所記を一寸覗いて見るに榎本釜次郎等を審理した際の口供を載せ、判決は初め榎本は揚屋入であつたのを特に親類預け、松平太郎以下謝免三見える。

第四は珍籍類三も言ふべく、先づ始めに卷物三となつた法曹類林がある。其の第二百卷の終りに嘉元二年六月八日書寫校合了貞顯三記し卷の首尾に金澤文庫の印あるは其の由來を物語るが、百九十二卷の奥に政治要略が三枚三更に別の條の斷片も合せつがれてゐるのはさうしたものである。之は前田綱紀侯が將軍家に献上したものである。元祿四年正月廿六日の徳川光圀の跋ある舊事記には校合参考書三して、古事記、日本紀、古語拾遺、新撰姓氏錄延喜式類聚國史其の他多數の書が掲げられて注意を惹く。この外紅葉山本平家物語、昌平坂本史館日録、それに羅山自筆の五山群經考、白石自筆の西洋紀聞三珍しいものが見られた。

第五繪圖類では先づ伊能忠敬の皇國全圖に目を注がねばならない。之は沿海を主眼三したもので、其の點に於

ては今日のものゝ大差はないであらう。忠敬の努力は實に驚嘆に値する。此處でも亦當事者の描いたこと云ふ櫻田事變圖があつたが、中心たる大老討取の部に於て昨日のさ少しく異なるから彼が之の寫真でない事は明らかである。元和元年大阪落城時之讀賣と言ふ瓦版も、物の粗末な事は別として甚だ珍すべきであらう。其の他修學院行幸圖春日神幸圖なご徳川末期の美しい畫帖繪卷も出されてゐた。

十二時一行は此處を出で、直ぐ近くの圖書寮へミ歩を運んだ。〔古住〕

●讀 史 會

例會 昨年九月二十七日午後六時半より樂友會館大講堂に於て開會、出席者、三浦、喜田兩博士、中村學士以下四十三名十時過閉會左の報告あり。

一、妙心寺と雪江宗深

中村 一良君

妙心寺が外部的には寧ろ不遇の地に置かれながら、近世以來宗内に斷然優勢を示すに至つたのは、其の獨自の經濟策、即ち細密な米錢納下帳(日單簿)の作製と、巧妙

な經濟組織による事最も大であるが、其の創意者こそ實に六世雪江其人であつた。彼は應仁の亂に燒滅した妙心寺を背負うて立ち、其の胸には自然復興に對する熱情と、ありし日への懷古とが湧いてゐた。前者が妙心寺の近世的發展の基礎たる經濟策其の他を生み、後者が亦關山、二世授翁以下の傳記として現れたのである。後者では彼は後の學者から捏造の汚名を被せられてゐるが、中世末期人に共通な歴史的無智と彼自身の態度とを考慮するならば、意識的作爲てふ冤罪は雪がるべきであらう。要するに彼は妙心寺更生の惱みを體驗した人であつた云云。

一、増上寺藏宋版一切經に就て

文學士 中村 直勝君

東京芝の増上寺第一藏所藏の一切經につき、近藤守重は元版と言つてゐるが、之は宋版湖州本で、もご江州伊香郡菅山寺の有であつた。菅山寺へは專曉上人建治年間宋より齎したとの寺傳は認めてよい様である。既に弘安三年此寺に存した事は同寺遺存本の奥書で知られる。而し

て菅山寺は同國總持寺の末寺で、總持寺からは日譽が家康の斡旋によつて智積院の三代になつた。一切經の移轉はこゝに起因する。日譽は慶長十七年十一月智積院に住持たるや翌年直ちに駿府に詣で、其の恩を謝してゐる。

當時家康は増上寺の寫經書を求めてゐた際で、此の時日譽は菅山寺一切經の事を洩したらしい。交渉は直ちに始つて九月には既に駿府に到着した。卷數は五四七一巻であつたが近年調査の數ミ一致せないのは何等かの數へ違ひによるのであらう。云云

一、古代史の研究ミ考古學

文學博士 喜田 貞吉君

古代史研究ミ考古學ミが密接不離の關係にあるべきは今更言ふを須ひぬ。古代史研究には文献的資料不充分的爲、人類學、土俗學、言語學等の補助の必要が唱へられるが、此等は餘程警戒を要し、確實性は遺物遺蹟に如くはなく、之を研究する考古學が最も必要である。然し今の考古學者は餘り遺物遺蹟に偏し過ぎる。記紀の古傳説なき勿論直ちに採用出來ぬが、しかもよく検討して遺物

遺蹟ミ照合すれば暗示を得る所少くない。只考古學の現状にては未だ其結果を直ちに採用し得る迄には達して居らぬから、隨つて古代史家は、後の史家が古文書を検討するミ同じく、自らも遺物遺蹟の調査に従事すべきであるミ銅鐸問題にも觸れられ、又最近研究中の青森縣八ノ戸の遺蹟に就いても簡單ながら、興味ある報告があつた。

例會 十月二十五日午後六時半より樂友會館大講堂に於て開會、出席者三浦、天沼兩博士中村學士以下二十二名、十時過閉會左の報告あり。

一、發生期に於る武士社會の要素に就て

吉田 三郎君

武士社會の發生は王朝時代の社會制度に含まれたる諸矛盾より來つたもので、爲に公民(農民)は莊園を媒介して次第に豪族の私民ミ化し、綱紀弛廢の世に主從ミして私的保護の結合をなすに至つたのであるが、武器を取つた農民は比較的少く、大部分は農奴的私民ミして新興社會を支持した點に寧ろ意義を有つ。武士其のもの、要

素もしては武力化せる豪族農民の外、代々の武門の子弟や、歸順した蝦夷等を挙げ得るが發生期に於けるかゝる武士社會は、其の中に後に見る如き階級的固定なく、僧兵盜賊團も其の要素一見異なるなきを特徴とする。云云

一、國學者として見たる熊澤蕃山 藤井 駿君

中世僧侶の手にあつた儒學は近世に入つて獨立の儒者に歸したが、其處には二個の特徴があつた。和學尊重排佛崇神之である。蕃山亦此の圈外に出でない。彼は和歌に巧に、著書の悉くを和文で記し、又源氏研究として源氏外傳がある。次に排佛傾向強く神佛習合説を排して神儒一致を説く。しかも其の神道中心論は彼の水土論の上に立ち、此處より彼の國體觀は日本を支那より寧ろ劣るゝとした。又公武關係に就ては大體現状維持の消極的尊王論であるが、内心は王政復古を希望した様である。要するに彼は近世日本國民自覺史上、山鹿素行や山崎派、水戸派の日本中心主義に比しては消極的であるが藤原惺窩林羅山よりは一步發展してゐる。云々

一、弘前及び國東所見

天沼 俊一君

一、弘前市最勝院五重塔 寛文年間の造立であるが各層屋根遞減の度大に相輪は塔身の三分の二に近く外形既に當時の類を絶するが細部亦優れてゐる。初重四方各間の蓋股には中に間斗束を立て、一つ宛十二支の文字を彫り、窓には皆連子入の圓窓を併用し普通の窓も連子は古式である。内部心柱は二重で止めて、初重に方一間の佛壇を構へ、大に裝飾を施す。其の四方の蓋股は形甚だよく、中の彫も花芽の取扱や、表裏の變化は古風であり、竹に雪の彫も亦土地柄興味を惹く。其他長押の繪文様にも鬘斗形等珍しいものがある。

ロ、豊後西國東郡三重村連續板碑 凝灰岩に彫られた二十七及び二十三連のもので、黒書あるが消えて讀めない。其の上方には圓形の中に阿彌陀三尊の種字を彫り、前方には五輪塔群が列ぶ又横岳字梅木には岩に五輪塔を彫り並べ、其の下に夫々一つ宛穴を彫る。又別に磨崖肖像もある。以上のものはいづれも室町頃と思はれる。云云。猶ほ松本市の筑摩八幡豊後東國東郡泉福寺の樓門。大雄殿、開山堂に就ても寫眞、拓本を以て興味ある報告

があつた。

例會 十一月二十二日午後六時半より樂友會館大講堂に於て開會、三浦博士、大塚、松野兩學士を始め出席者二十六名、十時半閉會左の報告あり。

一、西南戰爭の社會史的考察 今野 善胤君

明治七年より十年へかけての士族動亂に於て、其處に動く士族の氣持は、百姓一揆と多くの通有性を有ち、百姓一揆に見る經濟的意圖がこゝにも現れてゐる。封祿處分は社會的には封建制度の基礎的經濟制度の變革として又個人的には士族の經濟生活を封建性より富の自由競争たる近代性への變革として、重要な意味を有つ。此の家祿處分を素因として經濟生活の破綻封建的意識國家觀念の三者に作用されつゝ、士族動亂を發生せしめた。云云。

一、末代念佛授手印 井川 定慶君

博多の善導寺本は安貞二年辨長の自筆で一念義や西山派を排し、學問を斥け、自分の師よりうけた所は唯念佛を多く唱へることなりと強調し名の如く與に手印を捺して一座した弟子三十七名の名を花押を連ねてゐる。其の

與書は一般に活版とされるものとはことなり、其の誤を正すべきものである。手印は密教の影響であるが、水無瀬宮の後鳥羽院置文にもあつて當時行はれてゐた事を知る。此の授手印は淨土宗の教義上重要なものとして類本が所々にあるが、其等を互に照合する事に依つて法系次第其他種々興味ある事實を見出し得る。而して後世之を中心として色々の口授も出來遂に五重相傳なきを生ずるに至つた。云云。

一、歐米に於る幕末維新の外交文書に就て

大塚 武松君

先づ最近の歐米に於る幕末維新史料採訪に於て主に力を注がれた英佛蘭米の外務省、文書館所藏文書採訪の情況に就て述べ、其等の資料（主として外國使臣と本國政府間の往復文書であるが）による當時日本で問題とした事も先方政府では軽く取扱つてをり、又之に反する場合もあり、其の他種々の史料のみでは知れぬ事情も解つてくるので、ヒュースケン殺害に基く外國使臣江戸退去の際に於るハリスの沈着にして我に同情ある態度を始め

米國に倣つて條約締結の爲日本訪問を命ぜられ、和蘭を通じて我も豫知した英使ボーリングの遂に來らざりし理由、更に下關砲撃に關する列國使臣間の同情に就き興味ある研究の報告があつた。

大會 十二月七日正午より樂友會館樓上大講堂に於て第二十回創立記念大會を公開、左記題目の下に新研究の發表あると共に、別室には講演に關係ある記録、古文書繪畫等を展觀したが、會衆堂に溢れ非常な盛會であつた午後六時過講演を終へ、更に會員の晚餐會を催した。出席者三十三名、快談に時を過して十時散會。講演概要左の如し。

一、日本道德史上に於ける君德主義思想展開の一面

文學博士 清原 貞雄君

我國體の根本義は皇位の一系にあつて、君主の徳不徳を論じ得ず、従つて支那の君德主義による放伐革命の思想は絶対に許されない。然るに、日本に儒教が入るこゝこの君德主義思想も入つてきた。今藤原基經の陽成帝廢立に就て考へるに、之に對する批判として先づ君德主義

の立場をこつたものは愚管抄であり、次で神皇正統記がある。徳川時代の儒學隆盛期に於ては、鶯峰の本朝通鑑は君德主義に立脚してゐるが、徳川光圀は神聖不可侵の立場から立論してゐる。この外に、君主の不徳は攝政の罪であるを論じたものに武元立平の史鑑があるが、然し彼は皇位の神聖を論據としてゐない。史鑑の立場を繼で基經を辯護したのは頼山陽であるが、彼にはまた僻論を免れない點がある。要するに我國に於ける君德主義思想は、放伐論を認むるまでには至らなかつたが、古來外來文化に對する同化力のつよい我國に於て、これは又その同化の不充分な事實として注意するべきであらう。云云

一、外國史料より觀たる生麥事件の真相

文學士 大塚 武松君

幕府が島津久光の東海道通過を外人に通達するに當つて、時日に就き少しく不備であつたのこゝ、折悪しく當日通行した英人中日本に不馴な二人が先頭にあつた爲、遂に殺傷事件を惹起するに至つた。而して此無武裝非挑戰的外人に對する暴行はさなきだにヒューステン殺害、英

公使館襲撃等に因る興奮の未だ鎮まらぬ在横濱外人の感情を激發し、彼等を驅つて直接的報復手段にさへ出でしめんとしたが、幸ひ英公使ニールの沈着なる態度により辛うじて阻止するこゝを得た。しかも本事件に對する英國政府の強硬な態度により、其の後の交渉殊に償金問題困難に陥り國交危殆に瀕したが、高潮せる攘夷熱の只中に、唯徳川慶喜と小笠原圖書頭との默契の下に償金を支拂ひ、無事事件を落着せしめ得た。しかも此の間の事情より幕府の諸侯に對する無力状態が完全に外交國に暴露された。云云。

一、中世の歴史觀 文學博士 西田直二郎君

日本の歴史著作を見、それが有する精神形態を考ふれば、二つの相異なる傾向がある。一は過去の事件の一端に自己を織込んで考へるものであり、他は自己を過去の事件から切離して考へる精神の方面である。私は之を既に古代に於ける語部の傳誦と古事記とに於て對立を見る。平安朝には前者の系統に大鏡其他の物語風のものがあり後者の系統には六國史等の記録體のものがある。物語は

平安朝の思想傾向なる「外形に對する興味」と「運命」に就ての考察から現はれた必然の形式であつた。然し平安末戦亂期になるに人の生命、人間生活の運命は刹那的の考へられ、之が歴史思想に影響して戰記物の歴史觀があらはれ、更に「抄」なる歴史思想が起るが、箇々の中に一般を見、小事實中に最大の理ありとする所に「抄」の眞意義があるであらう。かゝる中世の歴史觀は、當時代の汎神教的思想に起因し、我國に於ては、天台の教義に負ふべきものも考へる。かく事實がそのまゝに究極の理を示すとする考は、近代歴史學のかなり進んだ考に一致し、更に小事實の中に、時代精神を見んとする近代文化史の研究方法は、早くも中世に於て、「抄」的史觀に示現し、其系統に屬する神皇正統記の中に見られるのである。云々。

歴史上の危険思想 文學博士 三浦 周行君

危険思想なるものは、現代の問題であると共に、過去の時代の問題でもあつた。而も、その危険さされる所以は、それが絶對的に危険なりと云ふのではなく、或時代に於て、一般の人々に眞なりと思惟される考を覆さん

するが爲である。故に時の推移につれて、危険思想でなくなるものもある。王道思想の如き、佛教思想の如き、何れもその傳來の當初は非常に危険なものに過ぎ、排撃を受けた。近世の漢學者中には、支那の易姓革命を是認して我國體を笑ふものが多かつた。大宰春臺の如きその尤なるものである。安藤昌益の如きは最も過激論で、働かざるもの食ふべからず云ふ論據に立ち、武家の存在私有財産制を否認する農本共產主義をすら主張し、それを外國にまで擴張せんとしたる邊、佐藤信淵の世界一統主義と相通するものがある。近くは又、明治初年に公議輿論に關し危険思想問題を生んだ。危険思想は、社會の

缺陷の強く表はれた時に被壓迫階級に同情する事等により生れるが、時の経過と共に、時代に調和融合しその社會・世態に刺戟を與へる者が多い。云々。

因に當日文學士三品彰英君の「都怒我阿羅斯等の語原に就て」の講演ある豫定であつたが急病の爲取止めた。

當日第一號第二號兩室に於て展觀せる陳列品は次の如

くである。第一部より第二部迄は文部省維新史料編纂事務局の所藏に係る。

第一室

第一部 生麥事件資料

一、ブリユウアツク——一八六二年九月十五日イギリス代理公使ジョン、ニールより本國政府への報告、英外相ラツセルよりの訓令其他

二、テイプロマツク、コレスボンダンス——米公使プリエインよりの生麥事件に關する報告

三、佛蘭西外交文書寫——佛公使ペレクロールの生麥事件に關する報告書

四、生麥事件犠牲者リチャードソン遺骸の寫眞

五、薩英戰爭圖四卷

六、繪入ロンドンニュース——薩英戰爭の英提督「クーパー」及薩藩より償金貳萬五千磅支拂の情況

第二部 日本開港資料

一、米船浦賀渡來圖——番船警備の狀態

二、合同國船圖說——弘化三年米提督ピツドル浦賀渡來圖

三、ペリー神奈川上陸圖、安政元年三月米提督彼理橫濱上陸

四、弘化二年六月、和蘭王の開國忠告に關する老中連署の返

翰及贈品目錄

五、米國總領事タウンセンド、ハリス肖像——從來日本に於

てハリス肖像と稱せられしものと異れり、ワシントン日本大使館所藏

六、安政假條約正文——一八六二年和蘭海牙に於て複製されしもの

第三部 横濱開港資料

一、萬延元年二月五日横濱にて殺害されし蘭人の検断書

二、御開港横濱の圖——日本原圖を和蘭にて翻譯せしもの、

上圖ホフマンの解説書

三、横濱外人風俗圖

第四部 遣外使節關係資料

一、萬延元年遣米使節新見豊前守等ワシントン到着圖——ハ

ーパス、ウイクリー所載

二、同上使節と合衆國大統領との會見圖——フランク、レス

リー所載

三、日本皇帝より合衆國大統領に贈られし絹布の窓掛、使節

隨員肖像——フランクレスリー所載

四、日本使節の舞踏に招待されし圖——ハーパス、ウイク

リー所載

五、一八六〇年六月十六日紐育觀兵式——フランク、レスリ

ー所載

六、新見豊前守短冊

七、新見豊前守米行實況寫眞

八、文久二年兩都兩港開市開港延期談判使節及隨員一行寫眞

ヘーグ國立圖書館所藏

九、同上使節書狀——佛外務省藏

十、將軍家茂書狀蘭文譯——佛外務省藏

十一、元治元年遣歐使節一行の寫眞——巴里自然科學博物館

藏

十二、同右使節書簡——佛外務省藏

第二室

十三、下關砲台へ英佛蘭米兵上陸占領圖、寫眞

十四、巴里にある下關砲台備附砲の寫眞

十五、日本人和蘭留學生 内田、飛田、西、津田等の寫眞

十六、慶應二年幕府より招聘せる佛國教官一行の圖

十七、島津芳久書狀 鹿兒島藩家老連署添書

十八、ナポレオン三世より徳川慶喜へ贈られし軍帽の寫眞

十九、慶應二年徳川民部大輔の巴里假寓

二十、慶應四年七月奥羽越州藩軍務總督等書狀

二十一、明治二年海外旅行免狀雛形

二十二、萬延元年プロシヤ使節オイレンブルク伯に隨行せる

畫家の江戸長崎寫生圖の寫眞——品川、池上本門寺、神田

明神、十二社、洗足池附近、不忍池、江戸灣入口、見附門

赤羽、長崎、江戸近郊、長崎の寺院

第五部

一、猶秘録、寫眞——文學博士 三浦周行氏藏

二、統道眞傳——文學博士 狩野亨吉氏藏

三、明治天皇グラント氏御對話大意——京都帝國大學藏
四、アメリカ前大統領ゼネラルグラント氏石膏像——京都帝國大學藏

五、大日本國々憲案——京都帝國大學藏

六、岩倉具視建言書案 若山儀一草——京都帝國大學藏

●明治史研究會

第六回例會 十月八日午後六時半より樂友會館に於て開催、丹羽、牧、徳重、原、堀江の諸氏及び學生十一名來會左の講話ありて十時半散會。

藩札の整理に就いて

池内 義資君

徳川時代諸藩の發行した藩札が明治初年に於て如何なる影響を政治、經濟に與へたるかを考へ、新政府の之に對する種々の對策を述べて竟に明治五年四月新紙幣を以て之が引換を開始し十二年に至り略完了するに至つた顛末を述べた。

明治維新漫談

丹羽 圭介君

幕末に於ける京都の情勢を述べ明治初年に於ける同氏の關係せる諸種の殖産事業の一斑を述べられたが就中明治四年及六年九年の京都博覽會、牧畜、蠶業等について

は特に詳細に説明せられ、而も此等の事業は隠れたる先覺者山本覺馬氏の指導に俟つもの多しとて同氏の功を推奨せられ、尙明治六年刊行の繪入ガイドブック二冊其他多數の史料を供覽せられた。

第七回例會 十一月十二日午後六時半より樂友會館に於て開催、三浦、大塚、牧、徳重の諸氏及び學生十三名來會。左の講演あり十時半散會。

佛國新聞に現はれたる日本使節一行の動靜

大塚 武松君

萬延元年新見豊前守一行の日米通商條約批准交換のためワシントンに派遣せられて後、英國公使オルコック、佛國公使ベレクールの斡旋によつて第一回遣歐使節として池田筑後守の一行が渡歐した事よりその後數次の遣使があつて、一八六七年ナポレオン三世の晩年、パリに於ける第一回世界博覽會を機とし幕府は徳川民部卿一行を渡佛せしめた事を述べ、この一行の同國に於ける動靜を當時發行せられたる新聞の記事によつて説かれた。

第八回例會 十二月十日午後六時半より樂友會館に於

て開催、三浦、黒正、牧、徳重、原、堀江諸氏及び學生十四名來會、左の講話ありて九時半散會。

版籍奉還の上表文の研究 原 與作君

薩長土肥四藩の建議以前姫路藩の建議があつたが奉還に就ての具體的意見を缺いてゐる。其後四藩の上表によつて他藩が動かされて上表してゐる點等から見て四藩の建議を以て版籍奉還上表の先驅とせねばなるまい。四藩を始め他藩の上表中には郡縣制度を云々せるものがあるが、それは後の廢藩置縣を意味する程度のものでなく多くは各藩を獨立行政區として取扱ふ考の下での郡縣論で新政府を中心とする全國一統の郡縣論は未だ充分成熟してゐなかつた、主として大久保、木戸公等の意見になれる四藩の上表もその域を脱せざるは兩公の明敏よく當時急激なる變革の困難なる事情を察したる爲であらう。

明治初年に於ける百姓一揆に就いて 黒正 巖君

徳川時代の百姓一揆がその本質に於て非革命的な社會運動であり明治初年に於けるそれも本質的には同様のものご考へざるを得ぬことを強調する爲約百五十件に就い

て之を概括し一揆の素因として農民の無智と明治初年に於ける新政府の威力の不充分なるを新政の充分徹底せざることを等をあけ、その動因を分つて社會的、經濟的、財政的、行政的、宗教的とし、その中宗教的動因より起りし二三の實例とし明治四年伊勢度會地方（神宮奉還の流説）明治五年新潟地方（神佛分離反對）明治五六年に互る大分地方（屠牛馬神佛分離反對）及明治六年越前大野郡（廢佛棄釋反對）等に就いて説明せられた。

●第十五回大藏會

昨年十一月二十四日、京都佛教各宗學校聯合會主催の下に第十五回大藏會が京都家政女學校に於て開催され、二十三、二十四兩日は展觀品を一般の觀覽に供した。其の第一門は徳川期以前の淨土教版にして、建仁四年の無量壽經、建曆元年の注十疑論、建保五年の往生要集、貞永元年の西方往生淨土瑞應刪傳、嘉禎二年の阿彌陀經、延應元年の選擇集、寛元三年の安樂集等七十四點、第二門は敦煌出土寫經にして、孔雀王咒經、摩訶般若波羅密經、比丘尼波羅提木叉戒本、諸律行事要集、金剛般若波

羅密經、藍達王經、遺教經、救疾經等六十五點を陳列した。尙ほ二十四日には午後一時より同校に於て文學博士矢吹慶輝氏の「熾皇出土の經典に就て」、藤堂祐範氏の「淨土教版に就て」と題する講演があつた。

●天正年間關係文書の印行
遣歐使節

天正年間大友有馬大村の三侯が遠く伊太利へ使節を發遣したことは我が外交、宗教、文化史上の一大事件であつたと共に又一大史劇であつた。此度圖らずも右三侯が其時彼地に遣はした珍貴なる文書が発見され、四百年後伊太利より再び日本に齎らし歸され京都帝國大學文學部の所藏に歸したので本會は特に之れを原大に複製し、新村、濱田兩博士の詳細なる解説を附して二百部限り世に出だすこととした。發行所は東京市神田區北甲賀町二十一番地刀江書院で、定價參圓、送料參拾八錢である。

●京都帝國大學文學部史學科本學年講義題目

國史

(講義種目)

普通 三浦教授 國史概説

毎週

二二

西洋史

普通

大類講師

西洋史概説(第一部)

四〇

彙報

第十五卷

第一號 一六七

特殊 西田教授 國史概説 一一
三浦教授 過渡期の文化(殊ニ幕末維新) 二二
西田教授 古代の文化 一一

喜田講師 日本古代民族史(第一學期)

大塚講師 日歐外交史(第二學期)

四〇

演習

三浦教授

法制の文獻的研究

一一

西田教授

日本社會史の研究

一一

東洋史

普通

桑原教授
羽田教授

東洋史概説(第一部)
東洋史概説(第二部)

二二

矢野教授

史記漢書の研究

二二

特殊

桑原教授

支那近代外交史特殊問題

二二

矢野教授

西域の文明

二二

羽田教授

唐宋時代の都市生活

二二

那波助教授

東洋史の諸問題

二二

演習

矢野教授

東洋史の諸問題

一一

羽田教授

東洋史の諸問題

一一

時野谷助教授 西洋史概説(第二部)

二

石橋教授 地理學實習

二

特殊

濱田教授 羅馬考古學

二

濱田教授 地誌の研究

二

矢野教授 支那近代外交史の特殊問題

二

濱田教授 考古學概論

二

原助教授 西洋古代史(第二學期以降)

二

濱田教授 羅馬考古學

二

フランス革命の研究

二

濱田教授 東洋考古學

二

大塚講師 日歐外交史(第二學期)

四〇

梅原講師 東洋考古學

二

演習

時野谷助教授 Wartenburg, Welgeschichte in unrisen. Gooch, History and Historians in Nineteenth Century.

二

濱田教授 東洋考古學の諸問題

二

實習 梅原講師 考古學實習

二

副科目

原助教授 未定(第三學期以降)

二

中村直助教授 古文書學各説

二

史學研究法

三浦教授 史料解題及講讀

一

普通

西田教授 史學概論

二

デ、ロース講師 日蘭外交史

二

地理學

長谷講師 日本佛教史(哲學科講義)

二

普通

石橋教授 人文地理學概説

二

那波助教 支那史講讀

二

中村教授 自然地理學概説

二

小川教授 地理學(理學部講義)(第一學期)三

二

特殊

石橋教授 人口及聚落

二

喜田講師 國史地理(第一學期)

二

小牧講師 佛蘭西地誌

二

山根講師 地形學(理學部講義)(第一學期)

二

小野講師 地圖學

二

小牧講師 外國地理書講讀

二

濱田教授

考古學講讀

Gordon Childe, The Dawn of European Civilization. 11

田中助教

羅典語田中秀央著 新羅甸文法

菊地講師

希臘語

ガスコ講師

伊太利語

小西教授

教育思想概説

○國史專攻學生ハ古文書學ヲ一箇年必修トス

會報

●評議員改選

昨年十一月本會大會に當り會則により評議員の改選投票を行ひしが其の結果舊評議員全部重任することに決せり。

●寄贈交換圖書

近江奈良朝の漢文學

東洋文庫

朝鮮支那文化の研究

京城帝國大學法文學會編

日鮮史話(松田甲述)第五編

朝鮮總督府

史學雜誌 四〇の八、九、十、十一、十二 史學會

史學 八の二、三 三田史學會

經濟論叢 二十九の三、四、五、卅の一 京都大學經濟學會

社會學雜誌 六五、六六、六七、六八、六九 日本社會學會

東京市政調査會圖書館月報

東洋學報 十八の一、二 東洋協會學術調査部

考古學雜誌 十九の九、十、十一、十二 考古學會

民族學 一の三、四、五、六 民族學會

郷土志料目錄 山口圖書館

人類學雜誌 四四の九、十、十一、十二 人類學會

歷史地理 五四の三、四、五、六 日本歷史地理學會

史蹟名勝天然紀念物四の九、十、十一 同保存協會

東北文化研究 二の三 史誌出版社

史前學雜誌 一の四 史前學會

史苑 二の六、三の二、二 立教大學史學會

宗教と藝術 十の三、四、五、六 宗教と藝術社

京都史蹟 一の二、二 京都史蹟會

刀劍研究 十五の十一、十二、十六の一 南人社

史學研究 一の二 廣島史學研究會

史學雜誌 一の五

南京中國史學會

仙臺市東北學院高等學部史學研究室

高里 良恭氏

國史學 一

國學院大學史學會

(右紹介者船津勝雄氏)

高祖善導大師繪傳

井川 定慶

和歌山市新八百屋町

宮本 春吉氏

多田院雜考

吉井 太郎

(右紹介者島田貞彦氏)

史淵 一

九大史學會

京都帝大文學部史學科

田中 達男氏

●會員 動靜

●入 會

廣島市廣島高等師範學校

千代田謙一氏

(右紹介者浦廉一氏)

木野戸勝隆氏

藤井準一郎氏

土岐 照治氏

滿洲奉天

滿洲教育專門學校

青地重四郎氏

中目 覺氏

上村 治八氏

(右紹介者横地得三氏)

角田 大立氏

有光 數一氏

千葉 眞純氏

東京市小石川區久堅町二五

山田 康彦氏

大阪金太郎氏

森田清之助氏

角田 久賢氏

(右紹介者板澤武雄氏)

高橋 健自氏

牧野 純一氏

大野 聽道氏

京都市外桃山中學校内

坂田 三郎氏

伊藤 祐晃氏

(右紹介者小橋淺雄氏)

東京市外中野町上ノ原九二八濱田方

廣瀬 榮一氏

右謹みて哀悼の意を表す

(右紹介者楊能漸氏)

●退 會

●逝 去

東京市外駒澤町

駒澤大學圖書館

(右紹介者島田氏)